

発達障害が10人にひとり がん患者が2人にひとり 今なにが起きているか？ その原因は……

市民のための生活環境病対策緊急セミナー

ネオニコチノイド（農薬）& トリチウム（放射性元素） 複合汚染問題



「生活環境病とトリチウム放流の問題」
西尾正道先生

福島原発事故によるトリチウム総量は約3400兆ベクレル、2014年3月でタンク貯留水中に830兆ベクレルのトリチウムがあると発表されている。この膨大な放射性廃液はその後も増加する一方である。そのため、漁連などの反対運動の際があれば、政府・東電はトリチウムを含む福島原発事故廃液の処理・処分として、それを希釈して海洋に投棄しようとしてきた。現在、ここに至っていよいよ政府は海洋投棄の実施に踏み切ろうとしている。原子力規制委員会の更田豊志委員長は規制するどころか海洋投棄を提唱し、先導している。我々は生命・健康への危険性を考えると放射性廃液を海洋に投棄することは決してすべきでないと思う。



「農薬（ネオニコチノイドなど）と
発達障害との関係」
木村一黒田純子先生

近年、自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害（ADHD）など発達障害が急増しており、社会問題となっている。従来、発達障害は遺伝要因が大きいと言われてきたが、膨大な研究が行われた結果、遺伝要因よりも環境要因（有機リン系、ネオニコチノイド系等の農薬や有害な環境化学物質）が大きいことが明らかとなってきた。農薬や環境ホルモンなど有害な環境化学物質は、精子減少、不妊症を起し、パーキンソン病、アルツハイマー病、がんなどの疾患のリスクを上げている。日本では、放射性物質と有害化学物質の複合汚染がこれらの健康障害を増強している可能性が高い。

2019年2月21日（木曜日）16時30分
衆議院第一議員会館B1大会議室

事前申込書

市民のための生活環境病対策緊急セミナー

FAX 042-572-2564 申し込み

email: com@luck.ocn.ne.jp

※セミナーは無料、どなたでも参加できます。締切：2019年2月10日（先着順）。定員になり次第締め切らせて頂きます

お名前

お電話番号

メールアドレス

2019年2月21日（木曜日）16時30分 衆議院第一議員会館BI大会議室

「国会議事堂前」●丸ノ内線 ●千代田線……1番出口 徒歩3分

「永田町」有楽町線 ●南北線 ●半蔵門線……1番出口 徒歩5分

「溜池山王」●南北線 ●銀座線5番出口……徒歩8分

当日スケジュール

16時より	受付開始
16時30分	西尾正道先生・講演
17時30分	木村一黒田純子先生・講演
18時30分	対談&質疑応答

西尾正道先生

北海道がんセンター名誉院長

2008年 北海道がんセンター院長
2013年 同センター名誉院長（定年退職後）
2013年 北海道医薬専門学校学校長（'18年3月まで）
2013年 北海道厚生局臨床研修審査専門員（'16年3月まで）

著書

- ・「がん医療と放射線治療」（エムイー振興協会／'00年）
- ・「がんの放射線治療」（日本評論社／'00年）
- ・「放射線治療医の本音—がん患者2万人と向き合って—」（NHK出版／'02年）
- ・「今、本当に受けたいがん治療」（エムイー振興協会／'09年）
- ・「放射線健康障害の真実」（旬報社／'12年）
- ・「正直ながんのはなし」（旬報社／'14年）
- ・「被ばく列島」（角川学芸出版／'14年）
- ・「患者よ、がんと賢く闘え!」（旬報社／'17年）

その他、医学領域の専門学術論文・著書多数。

木村一黒田純子先生

環境脳神経科学情報センター副代表

1977年 お茶の水女子大学大学院理学研究科修士課程終了
1977年 東京都神経科学総合研究所、微生物学部門主事
1984年 東京大学にて医学博士号取得
1997年 同研究所、神経細胞生物学部門主任
2007年 同研究所、発生形態研究部門主任
2011年 公益財団法人東京都医学総合研究所
脳発達・神経再生研究分野、神経再生研究室、研究員
2013年-2017年
同研究所、こどもの脳プロジェクト、研究員

著書

- ・「発達障害の原因と発症メカニズム」河出書房新社
（黒田洋一郎と共著／'14年）
- ・「地球を脅かす化学物質 発達障害やアレルギー急増の原因」
（海鳴社／'18年）

〒186-0003 東京都国立市富士見台1-28-1-33-303

「市民のためのがん治療の会」

問合せ・取材申し込み **090-1124-2925** 担当：黒川